33° MEETING INTERNAZIONALE FIAT 500 GARLENDA

1-2-3 LUGLIO 2016

これぞ本当の町おこし、みんな笑顔でフィアット500

**フィアット500が全世界から集まるミーティング、
『33°MEETING INTERNAZIONALE FIAT 500』が7月1～3日に開催された。
リビエラ海岸近くの小さな町、ガルレンダに今年も1000台以上の500が集結、
しかも今年は日伊国交150年ということで、日本が招待国!
その模様を現地取材レポートでお届けしよう。**

text & photo:Yuko NOGUCHI（野口祐子）*photo:Soichi KAGEYAMA*（陰山惣一）
editorial design:H.D.O.（堀口デザイン事務所）
photo & special thans:FIAT500 CLUB ITALIA

参加登録が行われたボルガータ・ヌオーヴァでは、記者会見のあと、何と広場で参加者の結婚式がスタート。多くの500オーナーたちに祝福された。

DAY 01

トリノから南に向かった先にある海沿い、リグーリア州の人口1200人の小さな町、ガルレンダ（GARLENDA）で『33°MEETING INTERNAZIONALE FIAT 500』(以下500ミーティング)が行われた。今年は日伊国交150年ということで、日本を招待国として開催。私も「絶対見ておくべき、本当に凄いから」という友人の言葉に押され、いざ、ガルレンダへ！

7月1日、ガルレンダの街に入るなり目の前に500の姿がポツンポツンと現れそれだけで興奮。そのうち仲間同士で何台か連なる姿も見えて来た。凄い！ こんな小さな町にフィアット500がこんなにたくさん集まるなんて。まずは参加登録が行われているボルガータ・ヌオーヴァ

こちらはヴィッラフランカ広場のゲートからツーリングに出かける様子。日本が招待国ということで、会場には父がお相撲さん、娘が芸者、柔道の選手と愉快なコスプレ家族が出現。他にも"痛車"のカッティング&コスプレも。

広場を出発した約400台の一行は海を目指し、海水浴真っ盛りのビーチに到着。このページのメインカットも、その光景のひとつとなっている。

ヴィッラフランカ広場に戻り、夜は地元のボランティアの人たちによる地元料理に舌鼓。参加者ともども、まさに世界交流の場となっていた。

33° MEETING INTERNAZIONALE FIAT 500 GARLENDA

（BORGATA NUOVA）へ。ここで記者会見が行われ、それが終わったと同時に広場では参加者の結婚式がスタート。なんとまあ家族的なイベントだ。そしてスタート地点のヴィッラフランカ広場（PARCO VILLA FRANCA）へ行ってみると、続々とそれぞれに趣向を凝らしたフィアット500がやって来るではないか。色もそれぞれ、装飾もそれぞれ。例えばシシリアからやってきた500はシシリア柄で覆われていた。他にも大きな『トトロ』を乗せたり、初代のオーナーおじいさんの写真を貼ったりと、挙げたらきりがない。今年は日本が招待国ということで、日本の国旗を掲げているクルマも多かった。大きな体の4人が小さい500に乗って来る人もたくさん。お決まりのポーズ、ルーフから体を乗り出している人も多かった。

さて、集まった約400台の500は、お昼過ぎから海へと向かって走った。海辺に並んでいる500のなんと可愛いこと！ 夜はヴィッラフランカ広場にふたたび戻っての夕食。地元ボランティアの人たちが手料理を披露し、皆、生き生きとしてお客さんと話していた。地元の家庭料理は本当に美味しかった！ まさにフィアット500を通じた、世界の交流の場だ。

それにしてもこのイベントの参加費が安い！ フィアット500クラブ会員は20ユーロ、そうでない人は30ユーロ。参加費を支払うとお土産が付いてくる、それだけで参加費以上。その代わり食事、宿泊は自分たちで探さなくてはならない。ということで広場の裏の方はキャンプ場と化していた。テントで寝泊まりし、食事も自分たちで用意。お金を使わないように工夫もできるのだ。期間中はいろいろなイベントが企画され、どれも参加は自由。かしこまることなく、自分たちのペースで楽しむことができる。

2日目はメインのグランドツアー。約100kmを500で走りまわる。企画担当はこのあたりの"食文化"を熟知しているサンドロさん。観光では知ることができないような、知る人ぞ知る田舎探訪のコアなツーリングとなっていた。ところどころ休憩した場所は、カブの産地で有名なカプラウナ（CAPRAUNA）や、同じくニンニク

スタート地点のヴィッラフランカ広場へ
続々と趣向を凝らしたフィアット500がやって来た。

の産地ヴェッサリコ（VESSALICO）などで、なかなか見ることのできない懐かしい昔の風景だった。夜は丁度サッカーの欧州選手権の準々決勝。イタリアの参戦がわかってから急遽スケジュールを変更し、広場に大きな画面を用意し、そこで皆と観戦できるように設置。ここはやっぱりサッカー大国、サッカーの動向によって人々のスケジュールも変わる。当日は1000人くらいが集まって観戦。残念ながらイタリアは敗北。そしてその悲しみを癒すように500で近くの海へ直行！　その時すでに夜中の12時過ぎである。そして夜が明け、最終日3日目の参加台数は実に1000台近くになっていた。

姿を見ただけで思わず微笑んでしまう、フィアット500。イタリア人にとってこのクルマはイタリアそのものだ。1957年に生まれ、1975年まで生産が続いた。全てのモデルを入れると約300万台もの500が生まれている。初めての家族のクルマが500だったというイタリア人も少なくない。多くのイタリア人がこのクルマを介してたくさんの思い出を持っているので、500を見ると皆が優しい顔になるのも納得。

運営に力を注いでいる組織委員会の皆さんは、ほとんどが地元の方。彼らのパッション、行動力は本当に凄い。心がこもった町おこしイベントである500ミーティングには、そんな地元民パワーがある限り、毎年世界中の500ファンがここに集結することだろう。2017年はフィアット500誕生60年。50周年の時は1436台が集結したが、さて来年はどんなイベントが用意されるのかも含め楽しみだ。日本の500ファンの皆さん、来年は是非、この500ミーティングに参加を。微笑みの3日間が味わえますから！

DAY 02

2日目、左はヴィッラフランカ広場周辺にテントを張り一夜を明かした人々の一角。この日も広場をスタートし、各地を巡ることとなった。

休憩ポイントとなったカブの産地で有名なカプラウナ。P63のメインカットもこちらとなる。まさに町をあげての全面協力だ。

台数が多いので、その光景はまさにフィアット500民族の大移動。途中で立ち寄った駐車場もこのとおり。文中に出てくるトトロ（隣のお面の中にも!）はこちらの500で、実はオープン仕様となっている。

2017年はフィアット500誕生60年。
来年はどんなイベントが用意されるのか？

続く休憩ポイント、ニンニクの産地で有名なヴェッサリコ。この頃になると雨もぱらついてきたが、参加者は気にすることなくツーリング続行。

DAY 03

3日目には、来年がフィアット500の60周年ということでこんな写真も撮影。ちなみに左上の写真は参加者に贈られる記念品となる。また招待国日本の紹介として大漁旗、金継ぎなどがお城（Castello della Lengueglia）で展示された。

この日はサッカー欧州選手権の準々決勝開催日。イタリアは残念ながら敗れ、その悲しみを癒すかのように一行は海へ。こちらは深夜1時すぎの様子……。

INTERVIEW
イベントの発起人、ドメニコ・ロマーノさんに訊く

今やガルレンダは"フィアット500"の町としてイタリア中、いや全世界の500ファンの間に知られている。今から30年以上も前となる1984年、500ミーティングは町おこしの一環としてスタートした。当時の市長、発起人であるドメニコ・ロマーノさんは語る。

「1984年、その頃ガルレンダの住民は約300人。なんとかして自分たちの町を皆に知ってもらいたいと思ったんです。この町にはイタリアでも有名な『ゴルフクラブ・ガルレンダ』があります。そこには別荘に滞在中のセルジオ・ピニンファリーナさんやフィアット家の親族がよくプレイしに来ていました。ガルレンダは海辺の町でこのあたりは別荘地なんです。そして不思議なことにこの町にはフィアット500所有者がたくさんいたのです。そこで皆さんの協力を得て、7月に500のミーティングを開いたんです。最初は30台くらいの小さな集まりでした。何とその時には500の父と言われるダンテ・ジアコーザさんも参加して下さったんです。今考えると、怖いもの知らずでした。ゴルフクラブ・ガルレンダでプレイしているフィアットの方に頼んで、直接ジアコーザさんに連絡してもらったんです。そうしたらジアコーザさん、丁度バカンス中で近くの海に来ていたんですね。すぐにお迎えに行き、参加して頂きました。そしてその時にたまたまオランダ人のカップルが見に来ていて、彼らが『オランダにも500クラブがある』というのです。1980年に誕生してすでに会員は3000人、と聞きました。丁度そのミーティングが9月にあるというので、2台の500でオランダまで行ってみたんです。そうしたら、500を囲んで凄い人出だったんですよ。これで私は『500で町おこしはうまく行く!』と実感したんです。でもその時は、まさか1000台以上が集まるとは思ってもいませんでした」

回を重ねるごとに参加者はどんどん増え、オランダ、イギリス、フランス、ドイツ、ベルギー、スイス、日本など海外からやって来る参加者を見て、ロマーノさんは500人気の高さを実感。2007年のフィアット 500の50周年にはなんと、1436台も集まったのであった。

1984年のスタート当時の市長で発起人のドメニコ・ロマーノさん(左)と、今回の企画を担当したサンドロさん。

CLUB
フィアット500クラブは世界で約2万1000人が所属

FIAT500 CLUB ITALIA
http://www.500clubitalia.it

年会費48ユーロとなるフィアット500クラブの会員は、現在全世界で約2万1000人! 単体車種のクラブでは世界で1番大きいという。会員となるには、当時の500所有者であるのが条件。現在、イタリア国内にある500は約30万台、海外を合わせたら35万台くらいと言われている。会員にはクラブ発行の『4 PICCOLE RUOTE』という雑誌が送られてくる(海外の会員は郵送料別途)ほか、会員の500に関する相談(部品など)にも答えてくれるそうだ。またガルレンダの本部を中心に、世界各国に185の認定クラブがある。年に1回行われるガルレンダの大会のほか、各々のクラブが年に数回のイベントを企画。本部であるガルレンダのスタッフ10名と連携し、常に年に何100という500のイベントが各地で行われている。

本部横には『MUSEO MULTIMEDIALI DEL FIAT 500 CLUB ITALIA』が併設され、500を取り巻く"文化"を堪能することができる。愛情の籠った手創り感溢れるミュージアムだ。

33° MEETING INTERNAZIONALE FIAT 500 GARLENDA

フィアット500クラブ本部の横にあるミュージアム(ムゼオ)。イベントに参加するならば、こちらも訪れておきたい。